



PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

2019年4月20日（土） 東日本決勝・第1日／美浦GC
大会結果のお知らせ

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝大会 >

◇第1日◇4月20日◇茨城・美浦GC（15-18歳の部男子6765ヤードほかカテゴリー別、パー72）
◇出場168人◇晴れ

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 東日本決勝大会 第1日 概況 >

15-18歳の部男子は、昨年の13-14歳の部日本代表の竹原佳吾（東京・早稲田実業高1年）が難コースで後半インを1アンダーで回り、イーブンパー72の好スコアをマークして首位に立った。3打差2位に昨年15-18歳の部代表の吉田隼汰（茨城・日本ウェルネス高2年）、一昨年13-14歳の部代表の玄飼台（うてな、日本ウェルネス高2年）と世界ジュニア経験者が上位につけた。同女子は松岡華（東京・日大通信1年）が3オーバー75で、横山珠々奈（栃木・宇都宮文星女子高1年）に1打差の首位に立ち、3打差以内に5人の混戦になった。

13-14歳の部男子は吉沢己咲（群馬・藤岡北中3年）が3オーバー75で2位松澤虎大（茨城・石岡中3年）に1打差のトップ。同女子は高野愛姫（あいひ、東京・飛鳥中3年）が4オーバー76で回り、2位の手塚彩馨（あやか、山梨・白根御勅使中2年）、三明桜子（福岡・沖学園中2年）に2打差で首位に立った。

その他の部門は、11-12歳の部男子は橋詰海斗（新潟・栖吉中1年）が75、女子は安西歩美（茨城・矢田部東中1年）と小林イリス（東京・聖学院中1年）が77で、9-10歳の部男子は荒木敬太（東京・白金小5年）と片野貫一郎（千葉・松戸東部小4年）が85、女子は根田うの（北海道・大曲東小5年）が72で、7-8歳の部男子は林田聖也（福岡・吉田小2年）が79、女子は長峰美桜（千葉・北貝塚小3年）が83で、それぞれ首位に立っている。

東日本決勝大会は東ブロック各地区予選突破者と、昨年のIMG A世界ジュニアで本戦シード権を取れなかった選手がシード選手として出場している。2日間36ホールの合計ストロークで争い、15-18歳、13-14歳の部男女は各2人、11-12歳の部以下の男女各3部門は各1人が日本代表に選抜され、先に行われた西日本決勝大会で決まった代表とともにIMG A世界ジュニア（7月9～12日、米カリフォルニア州サンディエゴ）に出場する。

また、15-18歳の部男子1位に男子ツアー「HEIWA・PGM CHAMPIONSHIP」出場権、13-14歳の部男子1位にAbemaTVツアー「HEIWA・PGM Challenge I」出場権がそれぞれ与えられる。



写真：
上／15-18歳男子 竹原佳吾
下／15-18歳女子 松岡華
©IJGA2019

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 東日本決勝大会 >

◇第1日◇15-18歳の部男子◇4月20日◇茨城・美浦GC(6765ヤード、パー72)

竹原佳吾(東京・早稲田実業高1年)が、難コースをイーブンパー72で回り、2位に3打差をつけて首位に立った。「ラッキーがあったので」と振り返ったのは終盤。17番で右の池に向かって飛んだが、池に下る土手の途中で止まっていた。最終18番では「右肩が前に出る悪い癖が出て」と、左の林のOB方向に飛んだが、木に当たって出てきた。そこからOKにつける会心のショットでバーディーフィニッシュした。「最近のショットの悪さから行けば、いいゴルフでした」という。関東アマの予選で落ちするなど、ゴルフの状態が悪かったという。18番で「力が入って」悪癖が出てしまったが、右肩が出る癖を直すように意識しながらのプレーだった。昨年、13-14歳の部で世界ジュニアの日本代表になった。本戦では56位と振るわなかった。「外国の選手は体が大きかった。活躍できなかつたから、もっと頑張んなきゃと思った」と刺激を受けた。再挑戦の権利を得るための最終日は「プレッシャーに打ち勝ちたい。今日みたいなラッキーはないと思うので、攻め過ぎず、グリーンセンターを狙っていきたい」と、2年連続代表を目指す。

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 東日本決勝大会 >

◇第1日◇15-18歳の部女子◇4月20日◇茨城・美浦GC(6330ヤード、パー72)

松岡華(東京・日大通信1年)が、3オーバー75に持ちこたえ、2位に1打差ながら首位に立った。「攻めきれなかったけど、守るところは守れたかなと思います」と振り返った。後半のアウトでショットが回復してきた。6番では6メートルにつけてバーディー、最終9番ではグリーンを少しこぼれたところから「4ヤード飛ばして8ヤード転がすというイメージ通り」というチップインバーディーで締めて、最終日につなげた。決勝大会は4回目。「え? ここで? というようなもったいないボギーもあったけど、美浦の怖さを知っているのと、無理をせずに耐えてきた。最近は「コースマネジメント力が上がったと思います。練習ラウンドでもピンを想像して歩測したり、よくグリーンを見たりしています」という。世界ジュニア出場へ最後のチャンス。「あすはもうちょっと攻められたらと思います。各日にパーをとっていきたい」と、初代表に意欲を見せていた。

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 東日本決勝大会 >

◇第1日◇13-14歳の部女子◇4月20日◇茨城・美浦GC(6330ヤード、パー72)

高野愛姫(あいひ、東京・飛鳥中3年)が4オーバー76で、2位2打差の首位に立った。インスタートの13番パー5の第3打で「グリーンのすぐ左にOBがあるのは分かっていたので」と避けようとして逆に右のバンカーにつかまり、しかも目玉に。出ただけでアプローチも寄らずダブルボギーにした。それでも18番を1メートルのバーディーを奪って2オーバーで折り返した。7番では7メートルのパーパットを「下りだったけどしっかり打っちゃえと思って」と強気でねじ込み、アウトも2オーバーにまとめた。「1.5~2メートルのショートパットを3回外したのが残念。2つはカップをくるっと回って…。ラインが一筋違うのかな」と振り返った。17日に美浦GCで練習ラウンドを行い、18、19日と東京都の国体予選に出場、明日の最終日で5日間連続のプレーになる。2大会に合わせて「70ヤード以内のショートゲームを重点的に練習してきた」といい、その甲斐あって国体予選では優勝を飾った。その勢いで世界ジュニア代表も射止めたい。「最終日はもうちょっとバーディーを取りたいです。せめて3つぐらいは」と意気込んでいた。



写真：
13-14歳女子 高野愛姫
©IJGA2019